

維持・更新投資について

平成17年7月6日

社会資本整備審議会・交通政策審議会 第5回計画部会

維持管理・更新の重要性

社会資本整備重点計画

平成15年10月策定の、社会資本整備重点計画において、「効率的・計画的な維持管理の推進」が位置づけられた。

(抜粋)

—第1章5 既存の社会資本の有効活用、ソフト施策との連携—
…社会資本の更新時期の平準化、維持管理や更新を考慮に入れたトータルコストの縮減等を図るため、総合的な資産管理手法を導入し、効率的・計画的な維持管理を推進する。

「日本21世紀ビジョン」経済財政展望ワーキング・グループ
(経済財政諮問会議)

平成16年10月27日に開催された「日本21世紀ビジョン」経済財政展望ワーキンググループ(WG)第3回会合において、「公共投資における更新投資について」が、その議題とされ、WGメンバーより以下のような発言があった。

(抜粋)

○…公共投資の総額は大きく縮小していかざるを得ない可能性も十分ある。…一定の前提を置いて、今後、公共投資が物理的にどこまで可能なかをきちんと推計した上で、算出される公共投資の可能額・許容量と更新投資・維持補修費との関係を見るべきである。…

○…今後の縮小する経済の中では公共投資が最大の問題になる。…公共投資に上限が課される中で、更新投資や、新たな社会資本の整備ができなくなるという問題がある。…いずれにしても必要なストック量を精緻に出さなければいけない。

「維持管理・更新」は、今後の社会資本整備における重要な課題となっている。

社会資本のストック量の推移

国土交通省所管の社会資本のストック量は、昭和25(1950)年には総額約8兆円であったのが、平成13(2001)年には約405兆円となり、この約50年の間に、約50倍の規模に達しているものと推計される。



